

鹿屋の未来を切り拓く



鹿屋市長
中西 茂



豊かさと温もりを実感できる
市民が主役の明るい未来づくり

明

けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、健やかで希望に満ちた新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、平素より市政運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、戦後70年という節目の年であり、平和学習ガイドの養成や戦跡めぐりツアー・企画展の開催など戦争の記憶を次世代に伝えるとともに、改めて市民の皆様と命と平和の大切さを考える取組を進めてまいりました。

また、鹿児島県内で初めて開催された国民文化祭がしま2015では、鹿屋市内においても「花いくさ」など各種文化イベントに市内外から約6万5千人の方々にお越しただき、鹿屋の文化の奥深さをアピールすることができました。

産業面に関しては、昨年4月にオープンした大隅加工技術研究センターと民間企業の共同研究による6次産業化の推進が図られてきているとともに、農業分野では、生産者の皆様が各種品評会等で受賞されるなど、本市の今後の発展につながる素晴らしい年となりました。また、例年にも増して盛大に開催した産業フェスタや農業まつりなど各種イベントのにぎわいは地域の活性化に少しでも貢献できたものと考えています。さらには、本市出身の森山裕衆議員が農林水産大臣に就任されたことは誠に喜ばしい限りでございます。

さて、鹿屋市は本年1月1日で合併10周年という大きな節目を迎えました。これまでの10年を振り返り、検証しつつこれからの鹿屋・大隅の新しい未来へ向けて市民の皆様と共に取り組んでいきます。

取組にあたっては、昨年10月に策定した「鹿屋市人口ビジョン」・「鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた2060年に約9万人の人口を維持するという将来目標の実現に向けて、人口減少を克服する施策を展開し、鹿屋・大隅が成長する活力を取り戻していきたいと考えています。

このため、戦略に位置づけた「大隅地域の拠点都市としての存在価値をさらに高める」「若者の魅力的な住環境や雇用、教育環境を創造する」「鹿屋の地域力を結集して地方創生に取り組む」ことを基本姿勢に市民が将来に希望を持って安心して暮らせる地域づくりを推進する実効性の高い施策・事業を構築していきたいと考えています。

平成28年は、「丙申」の年です。丙は太陽の火で、物事の本質が明らかになる意味で、申は果実が成熟し明らかになる意味だそうです。今年も丙と申を併せて、努力してきたことが実を結び、大きく飛躍することを期待してやみません。

これからも、市民の皆様と一緒に頑張ってまいります。安全で将来に希望の持てる施策に取り組んでまいりますので、本年も市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、新春の門出にあたり、市民の皆様方のご多幸を心から祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。